

「成長軌道を取り戻すための3カ年」

京阪線において「快適性・利便性の向上」「すべてのお客さまにやさしい環境づくり」に取り組みます。

- 京都・東山観光の中心となる「祇園四条駅」コンコースをリニューアル
- お客さまの声を生かした「快適なトイレ」を整備
- 京阪線全駅に、緊急情報等の提供を目的とした「旅客案内ディスプレイ」を設置
- 訪日外国人にやさしい「駅ナンバリング」「主な駅サインの4カ国語表記」の拡大

京阪電気鉄道株式会社（本社：大阪府中央区、社長：加藤好文）では、京阪グループ次期中期経営計画「創生果敢」（2015～2017年度）において、“「鉄道復権」に向けた間断なき鉄道活性化施策の推進”を掲げています。当社鉄道事業においては、今後3年間で「成長軌道を取り戻すための3カ年」と位置づけ、将来につながる基盤づくりを進めます。

当社では、より多くの方により長くご支持いただけるよう「快適性・利便性の向上」に注力するとともに、「すべてのお客さまにやさしい環境づくり」に取り組んでまいります。これらは、京阪ブランドの象徴ともいえる鉄道・駅のサービスを向上させることで、「沿線にお住まいの方にも国内外から観光でお越しの方にも『やさしく』ありたい」という思いを表していくものです。

なかでも、「快適性・利便性の向上」の取り組みでは、京都・東山観光の中心となる祇園四条駅のコンコースを大幅にリニューアルするほか、七条～出町柳駅間を中心にトイレのリニューアルを実施します。さらに、平成29年度完了を目途に旅客案内ディスプレイを京阪線全駅に導入するとともに、バリアフリー設備の整備、訪日外国人にやさしい環境を整えるための駅ナンバリングや駅サインの4カ国語表記を拡大します。

詳細は別紙のとおりです。



祇園四条駅リニューアル（イメージ）

(別紙)

1. 快適性・利便性の向上

(1) 駅の美装化

京都を代表する観光地・東山エリアの中心に位置する祇園四条駅を、大幅にリニューアルをします。東山エリアのエントランスにふさわしいイメージを表現し、訪日外国人をはじめとする観光のお客さまに、京都らしさを感じていただけるような演出を施します。

また、コンコースを中心とした“駅ナカ”は、インフォステーションの配置、観光案内の機能を強化するとともに、商業スペースの拡大を構想するなど、京都・東山のエントランス機能を充実させます。

整備時期 平成27年度に実施

投資総額 約5.0億円(祇園四条駅)

今回の祇園四条駅のリニューアルを皮切りとして、他の駅についても美装化を進めていく予定です。

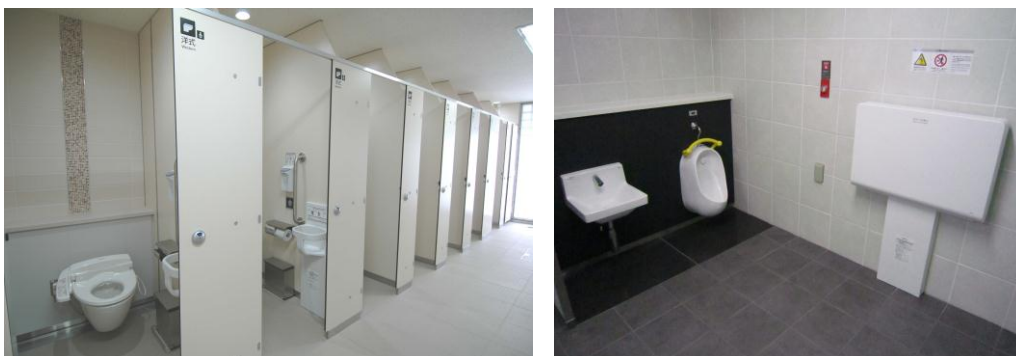
(2) 快適なトイレ環境の整備

お客さまからのご要望をもとに、当社線の駅トイレをリニューアルいたします。清潔感の向上を基本としながら、高齢者や子育て世代にやさしく、さらには訪日外国人の増加など社会環境の変化にもお応えできる機能を備えたトイレ空間づくりをめざします。個室は全洋式化し温水洗浄便座を導入、パウダーコーナーや幼児用器具(便座)の設置、訪日外国人に配慮した分かりやすいご案内(衛生器具の使用方法を4ヵ国語やイラストで表示)を施します。また、環境に配慮し、節水タイプの衛生器具やLED照明を採用します。

まずは、平成27年度に美装化を計画している祇園四条駅のトイレからスタートし、京都地下線の各駅(七条～出町柳駅)で順次整備していく予定です

整備時期 平成27年度より七条～出町柳駅を順次整備。平成29年度完了予定

投資総額 約3.3億円



当社での事例(左:樟葉駅、右:枚方市駅)

(3) 車両の新造・リニューアル

車両の新造およびリニューアルを計画的に実施します。

① 13000系新造

環境配慮型13000系車両の導入を進めます。環境への配慮やバリアフリーへの対応、安全性の向上に主眼を置き、従来車両（2200系、2600系）との比較で約35%の電力削減（運転用電力全体では約3%の削減効果（計56両導入した場合）、走行騒音の低減、車いすスペースの確保、車体強度の向上等を実現します。

導入時期 平成28年度までに7両2編成、4両1編成を導入予定

投資総額 約23億円



② 6000系リニューアル

6000系車両は、鉄道友の会のローレル賞を受賞するなど高い評価をいただき、現在も活躍していますが、昭和58年のデビューから約30年が経過し、平成25年度より大々的なリニューアルを進めています。車いすスペースや液晶型車内案内表示器、ドアチャイムの設置等バリアフリー化への対応、内装材の取り替え、非常通報装置の設置、座席の更新や握り棒の増設等を実施しています。平成33年度には全編成（8両14編成）のリニューアルが完了する予定です。

整備時期 平成33年度まで毎年1～2編成をリニューアル

投資総額 約38.5億円



2. すべてのお客さまにやさしい環境づくり

(1) 旅客案内ディスプレイの全駅導入

ダイヤ乱れ時など、お客さまにタイムリーな情報提供ができるように、旅客案内ディスプレイ（40～50インチ型を予定）を京阪線全駅に導入します。これまでも、ホームページでの「列車運行情報」による情報配信や、駅案内放送、車内告知、行先表示器等による緊急メッセージでご案内をしておりましたが、今後導入する旅客案内ディスプレイでは、障害発生箇所や列車遅延・運休情報、振替輸送の案内等の情報を、視覚的に、かつ一斉に提供することが可能となります。

また、平常時は沿線観光案内やマナー啓蒙など多様な用途に活用し、さらなる案内サービスの充実を図ってまいります。

整備時期 平成27年度より順次設置。平成29年度完了予定

投資総額 約4.0億円

(2) バリアフリー設備の整備

かねてからエレベーターや多目的トイレをはじめとしたバリアフリー設備の整備を順次進めています。

深草駅では平成25年度からバリアフリー設備の整備を実現するために、平成27年度末の完了をめざして橋上駅舎新設工事を進めています。エレベーターによるバリアフリールート の 確 立 を は じ め、 車 い す を ご 使 用 の 方 も ス ム ーズ に 通 過 で き る 幅 広 改 札 口 や 多 目 的 ト イ レ を 整 備 し ま す。 ま た、 駅 舎 新 設 工 事 と 合 わ せ て ホ ー ム の 拡 幅 を 行 い、 安 全 性 の 向 上 や 朝 夕 の ラ ッ シ ュ 時 間 帯 の 混 雑 緩 和 を 図 り ま す。

整備時期 平成27年度末 深草駅新駅舎完了予定

[深草駅のバリアフリー設備整備概要]

① 駅舎新設

- ・エレベーターの整備（2基）
- ・多目的トイレの整備
- ・幅広改札口の整備
- ・列車接近表示器の新設 等

② ホーム拡幅



深草駅橋上駅舎（イメージ図）

(3) 訪日外国人にやさしい環境整備

① 駅ナンバリング、主な駅サインの4カ国語表記の実施

訪日外国人や初めて当社線を利用されるお客さまへの配慮として、駅ナンバリングや主な駅サインの4カ国語(日本語、英語、中国語(簡体字)、韓国語)表記を進めています。不慣れなお客さまにとっても分かりやすく表示することにより観光を楽しんでいただける環境づくりをめざします。

整備時期 平成28年度完了予定



駅サイン(4カ国語表記例)

② タブレット端末による通訳サービスの活用

日本語を理解いただけない外国人のお客さまへのご案内に、タブレット端末による通訳サービスを導入します。現在、導入している祇園四条駅に加え、本日より守口市駅、枚方市駅、伏見稲荷駅に展開します。

当社では、平成27～29年度を「成長軌道を取り戻すための3ヵ年」と位置づけ、上記施策をはじめとする「快適性・利便性の向上」「すべてのお客さまにやさしい環境づくり」に取り組む一方、将来につながる新たなサービス向上に向けた取り組みについても「果敢」にチャレンジしてまいります。

以 上